

様式第 3 号（第 2 条関係）

（第 1 面）

工 事 監 理 結 果 報 告 書

小松市建築基準法施行細則第 2 条第 2 項の規定により，下記のとおり報告します。この報告書に記載の事項は，事実と相違ありません。

年 月 日

（あて先）小松市建築主事

報告者（工事監理者）

住 所

氏 名

（ ）級 建 築 士（ ）登録第 号

所属（ ）級建築士事務所（ ）登録第 号

電話番号

建 築 主 住所・氏名	電話番号					
建 築 場 所	小松市					
設 計 者 住所・氏名	（ ）級建築士 （ ）登録第 号 （ ）級建築士事務所 （ ）登録第 号					
工事施工者 住所・氏名	建設業の許可（ ）登録第 号 電話番号					
確認済年月 日番号	第 年 月 日 号					
建築物の概 要	敷地面積			建築面積		
		m ²			m ²	
	階数	地上 階 地下 階	主要 用途		延べ 面積	
					構造	

（注） 1 この報告書には，工事別及び工種別に工事監理の状況について記載した図書又は書面を添付して下さい。

(第 2 面)

1 地業

地 業 の 種 類	砂・砂利・割ぐり・土石・コンクリートがら・いかだ・杭・地盤改良 その他()
-----------	---

2 コンクリート工事

かぶり厚さの 最小値・配 筋検査状況	部 位	土に接しない部分			土に接する部分				
	基 礎 配筋状況								
	柱 配筋状況								
	梁 配筋状況								
	床 板 配筋状況								
	屋 根 板 配筋状況								
	耐 力 壁 配筋状況								
	非耐力壁 配筋状況								
レディーミクスト コンクリート		製造会社又は工場名(JIS 認定・その他)							
打 込 結 果	打 込 箇 所								
	打 込 年 月 日								
	コンクリートの種類								
	設計基準強度 (kg/cm ²)								
	呼 び 強 度 (kg/cm ²)								
	ス ラ ン プ (cm)								
	空 気 量 (%)								
	圧縮強度(kg/cm ²) 28 日								
	試 験 所 名								
	塩化物量測定結果 (kg/m ³)								
養生方法 型枠存置期間									
仕上がり品質 じゃんか、空洞の有無 処 置 方 法									
(注) 圧縮強度:現場水中養生供試体圧縮強度又はコアー供試体圧縮強度(5 6 建告第 1102 号)									

(第3面)

3 鉄骨工事

工場における鉄骨加工の状況	溶接継目の部位 鋼材の種類及び 作業方法	部 位	鋼 材 の 種 類	令第 92 条に示す 作業方法
	鉄 骨 加 工 工 場 住 所 ・ 名 称 認 定 番 号	TEL		
	鉄骨加工の状況			
工場における鉄骨溶接加工に関する検査結果	検査を行った者の住所・氏名			
	検査結果の概要			
工事現場における検査の状況		検査項目	検 査 方 法	検査結果
	柱脚部及び建て方工事			
	溶 接 工 事			
	ボ ル ト 工 事			
	そ の 他			

(第4面)

4 木造又は木工事

	項 目	内 容
アンカーボルト等	アンカーボルト	径 : 埋込長さ : 防 錆 : 首 の 出 : 座 金 :
	換 気 口	間隔 : サイズ : 有効面積 :
軸	土 台	・使用材種 ・使用土台断面寸法 ・継手
	柱	・使用材種 ・使用柱断面寸法 通柱 管柱 ・仕口 ・接合部の補強金物の名称 土台と柱 ()
	耐 力 壁	・使用材料名 () ・使用材料寸法 () (厚 mm×幅 mm×長 mm) ・接合部のくぎ又は補強金物の名称 () ・くぎの間隔 (外周部 mm, 中間部 mm) ・防腐措置の部位 () ・防腐措置の方法 ()
組	は 差 り 胴 け た	・使用材種 () ・使用されたはりの断面寸法 最小(cm) 最大(cm) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) ・はりの継手 () ・接合部の補強金物名称 ()
	大 引 太 根 太	・使用材種 () ・使用された大引の断面寸法 (cm × cm) ・使用された根太の断面寸法 大引間隔 0.9m 内外 (cm × cm) 大引間隔 1.8m 内外 (cm × cm) ・根太間隔 和室 (cm) 洋室 (cm)

(第5面)

小屋	小屋ばり	・使用材種 () ・使用した小屋ばりの断面寸法 最小(cm) 最大(cm) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) はり間 m (×) (×) ・小屋ばり仕口 () ・接合部の補強金物名称 ()
	むな木 もや木 たる木	・使用材種 () ・使用されたむな木の断面寸法 (cm × cm) ・使用されたもやの断面寸法 (cm × cm) ・使用されたたる木の断面寸法 (cm × cm) ・たる木間隔 (cm)
屋根	下地	・使用した野地板種類 () ・ " " 厚さ (mm) ・葺下地種類 () ・ " 厚さ (mm) ・ " 重ね (mm)
	葺材	・使用した葺材名 () ・金属製屋根葺材の板厚(mm)
屋根	葺材	・留め付け用亜鉛メッキくぎ長さ (mm) ・屋根勾配 (/)
屋根	鋳工事	・すて谷鉄板の立上り寸法 (cm) ・ " " 厚さ (mm)

(第6面)

5 枠組壁工法

(1) 必要壁量計算表

階		床面積による必要壁量			見付面積による必要壁量				(ト) (ハ)と(ヘ)の 大きい方必要壁量 (cm)		
		(イ) 床面積 (m ²)	(ロ) (注1) 屋根材の種類及び積雪量による係数 (cm/m ²)	(ハ)=(イ)−(ロ) 耐力壁の長さ (cm)	(ニ) (注2) 壁の見付面積 (m ²)		(ホ) 風の強さによる区域別の係数 (cm/m ²)	(ヘ)=(ニ)×(ホ) 耐力壁の長さ (cm)			
					梁間 方向	桁行 方向		梁間 方向	桁行 方向	梁間 方向	桁行 方向
平家建											
2階建	1階										
	2階										
3階建	1階										
	2階										

(注1) 垂直最深積雪量を屋根勾配又は雪おろしの慣習により低減した場合は、その説明書を添付すること。

(注2) 見付面積は、その階の床面からの高さ 1.35m 以下の部分を除いたものとする。

(2) 設計壁量計算表

建築物 の 階 数 (注 1)	階	耐 力 壁 の 種 類 (注 2)		倍 率 (注 3)	張 り 間 方 向		け た 行 方 向	
					長 さ (cm)	有 効 壁 量 (cm)	長 さ	有 効 壁 量 (cm)
(平 家 建 ・ 2 階 建 ・ 3 階 建)	1	(1)	厚 さ mm の()	()	(イ) (ロ)	(ハ) = (イ) × (ロ)	(ニ)	(ホ) = (イ) × (ニ)
			厚 さ mm の()	()				
			筋かい (ある・ない)	()				
		(2)	厚 さ mm の()	()				
			厚 さ mm の()	()				
			筋かい (ある・ない)	()				
		(3)	厚 さ mm の()	()				
			厚 さ mm の()	()				
			筋かい (ある・ない)	()				
		有 効 壁 量 の 合 計		—	—	—	—	—
	2	(1)	厚 さ mm の()	()				
			厚 さ mm の()	()				
			筋かい (ある・ない)	()				
		(2)	厚 さ mm の()	()				
			厚 さ mm の()	()				
			筋かい (ある・ない)	()				
		(3)	厚 さ mm の()	()				
			厚 さ mm の()	()				
			筋かい (ある・ない)	()				
		有 効 壁 量 の 合 計		—	—	—	—	—

(注 1) 該当するものを○印で囲むこと。

(注 2) ()内には、片側壁面に打ちつける壁材の名称を記入し、筋かいにあつては、該当するものを○印で囲むこと。

(注 3) ()内には、片側ずつの倍率及び筋かいがある場合の倍率(0.5)を記入すること。

(第8面)

(3) 主要部材表

種別	主 要 使 用 箇 所				寸 法 形 式(呼 名)等 (注 1)					材料の規格 (注 2)	
枠 組 材	土 台				204	206	208			404	
	床	床 端 側	根 根 根	太 太 太	}	206	208	210	212		
	小屋 (注 3)	天 垂	井 根	太 木		204	206	208	210	212	
	耐力 壁	た 上 下		枠 枠 枠	}	204	206	208			404
床材・ 屋根下地・ 壁材	床材	構 造 用 合 板 パーティクルボード				厚さ_____m／m 厚さ_____m／m		サイズ____×____ サイズ____×____			
	屋根 下地	構 造 用 合 板 パーティクルボード			厚さ_____m／m 厚さ_____m／m		サイズ____×____ サイズ____×____				
	耐力壁 の 壁材	()			厚さ_____m／m		サイズ____×____				
		()			厚さ_____m／m		サイズ____×____				
()			厚さ_____m／m		サイズ____×____						
()			厚さ_____m／m		サイズ____×____						
大 材 臣 認 定 料											

(注 1) 寸法形式については、該当するものを○印で囲むこと。

(注 2) 材料の規格の記入例：甲種枠組材(2級)JISA5907 の 450。

(注 3) 小屋にトラスを用いた場合には、トラスの構造耐力上の安全性を説明した書類を添付すること。ただし、住宅金融公庫「枠組壁工法共通仕様書」による場合は、この限りではない。

(4) 部材別最大支持スパン，ピッチ表

部 材	最大支持スパン(cm)	ピッチ(間隔) (cm)	備 考
1 階 床 根 太			
2 階 床 根 太			
3 階 床 根 太			
天 井 根 太			
垂 木			
た て 枠			

(5) チェックリスト

工種	構造部	チェック項目	備考	適否
基礎工事	布基礎	- 位置, 大きさ - 鉄筋コンクリート造か否か - 天端の高さ - フーチングの大きさ	幅 12cm 以上 (3 階建は 15cm 以上) 3 階建 軟弱地盤の区域の場合地盤面から 30cm 以上 3 階建の場合必要 幅 45cm 以上 厚さ 15cm 以上	
	アンカーボルト	- 径, 長さ - 間隔, 配置	径 12mm 以上 長さ 35cm 以上 間隔 2m 以下 配置隅角部 継手部 〔 3 階建は開口部の両端から 15cm 〕 以内の部分等	
	換気孔	間隔, 大きさ	間隔 5m 以下 大きさ 300cm ² 以上	
枠組	土台	- 防腐処理がなされているか - 土台と布基礎との間の防水紙 - 土台とアンカーボルトとの締めつけ		
	床	- 端根太と床根太, 側根太との釘打ち - 床根太と土台, 頭つなぎとの釘打ち - 端根太又は側根太と土台又は頭つなぎとの釘打ち - 床の枠組と床材との釘打ち - 床材の厚さ, 配置 - 床根太の間隔 - ころび止めの間隔, 釘打ち - 開口部の補強方法 - 耐力壁等の直下に耐力壁を設けない場合の補強方法	CN90 3 本 CN75 2 本又は CN65 3 本 CN75 間隔 50cm 以下 (3 階建の 1 階は CN75 間隔 25cm 以下) CN50 外周部間隔 15cm 以下 その他間隔 20cm 以下 合板 12mm 以上 パーティクル 15mm 以上 50cm 以下 3m 以下ごと	
	耐力壁	3 階建の 3 階部分の構造方法 - たて枠と上枠, 下枠との釘打ち - 下枠と床枠組との釘打ち - 上枠と頭つなぎとの釘打ち - たて枠とたて枠まぐさ受けとの釘打ち - 下枠たて枠上枠と筋かいとの釘打ち - 壁の枠組と構造用合板, パーティクルボード, ハードボード, 硬質木片セメント板, ラスシートとの釘打ち - 壁の枠組と石こうボード, パルプセメント板との釘打ち - 壁の枠組とシーリングボードとの釘打ち - 壁の枠組とフレキシブル板, 石綿パライト板, 石綿けい酸カルシウム板, 炭酸マグネシウム板との釘打ち - 壁の枠組と製材との釘打ち	CN90 2 本, CN75 3 本, CN65 4 本 CN90 間隔 50cm 以下 (3 階建の 1 階は CN90 間隔 25cm 以下) CN90 間隔 50cm 以下 CN75 間隔 30cm 以下 CN65 各 2 本 CN50 外周部間隔 10cm 以下その他間隔 20cm 以下 GN40, SFN45 同上 SN40 同上 GN40, SFN45 外周部間隔 15cm 以下, その他間隔 30cm 以下 CN50 各 2 本	

(第 10 面)

工種	構 造 部 分	チ ェ ッ ク 項 目	備 考	適否
枠組工事	耐力壁	・壁材の厚さ ・たて枠の間隔 ・隅角部，交さ部のたて枠 ・金物が正しく使用されているか ・両面開口を設ける場合の交さ部分の補強方法 ・開口部の補強方法 ・地階の壁の構造方法	3 本以上	
小屋組工事	小 屋	・垂木と天井根太との釘打ち ・垂木とむなぎとの釘打ち ・垂木，天井根太，トラスと頭つなぎとの釘打ち ・垂木，トラスと構造用合板，パーティクルボードとの釘打ち ・屋根下地の厚さ，配置 ・垂木の間隔 ・垂木つなぎの配置 ・振れ止めの配置 ・金物が正しく使用されているか ・開口部の補強方法	CN90 3 本，CN75 5 本 CN75 3 本 CN75 2 本，CN65 3 本 CN50 外周部間隔 15cm 以下 その他間隔 30cm 以下 合板 9mm 以上 パーティクル 12mm 以上 50cm 以下	

(第 11 面)

6 丸太組構法

(1) 構造概要一覧表

階 数	床 面 積			最 高 高 さ
	1 階	2 階	計	m
	m ²	m ²	m ²	
丸 太 材 等 の 樹 種			丸太材等の断面積	
産			cm ²	
耐 力 壁 の 最 高 高 さ	耐 力 壁 相 互 の 最 大 距 離	耐力壁線により囲まれた部分の水平投影面積の最大		
m	m	m× m＝ m ²		
通 し ボ ル ト		だ ぼ		
材 質	径	材 料	径	
	mm		mm	
基 礎 の 形 式 と フ ー チ ン グ 幅				
基礎の形式及び構造種別		基礎のフーチング幅		地 耐 力
		cm		cm ²
各 段 ご と の だ ぼ 木 数				
	建物に必要なだぼ本数		建物に配置されただぼ本数	
はり間方向	本		本	
けた行方向	本		本	
丸太材等の形状(図示する。)				
断 面 形 状		交差部の組み方と突出長さ		

(第 12 面)

(2) 必要だば本数計算表

階	床面積によるだば本数			見付面積による必要だば本数					(ト) (注 3) (ハ) と (ヘ) の大 きい方の必要だ ば本数 (本)	
	(イ) 床面積 (m^2)	(ロ) (注 1) 1 階の床面積 に乗ずる数値 (本/ m^2)	(ハ) = (イ) × (ロ) 必要だば本数 (本)	(ニ) 見 付 面 積 (m^2)		(ホ) (注 2) 見付面積に 乗ずる数値 (本/ m^2)	(ヘ) = (ニ) × (ホ) 必要だば本数 (本)		はり間 方 向	けた行 方 向
				はり間 方 向	けた行 方 向		はり間 方 向	けた行 方 向		
平屋建										
2 階建										

(注 1) 昭和 61 年建設省告示第 859 号(以下「告示」という。), 表 1 の数値

(注 2) 告示, 表 2 の数値

(注 3) 小数部を切上げた整数

(3) 必要だば本数計算表

だばを配置する丸太材等の段	下から 段目(注 1)
---------------	-------------

	張り間方向	けた行方向
だばの種類		
だばの小径 d (ミリメートル)		
丸太材等の見付高さ D (ミリメートル)		
Sf(注 2) (キログラム)		
Sw(注 3) (キログラム)		
Sk(注 4) (キログラム)		
$nw = Sw / Sf$ (本)		
$nk = Sk / Sf$ (本)		
nw, nk のうち多い方の必要だば 本数		

(注 1) 丸太材等の各段ごとに算定すること。(複数の段においてだばの本数が等しい場合には, それらのうちの最も下の段について記入すればよい。)

(注 2) (注 3) (注 4) この欄には計算結果の数値を記入し, 計算過程を示した資料を別途添付する。

(第13面)

7 シックハウス対策

(1) 内装仕上げ

内装仕上げの区画別概要

番号		階		換気回数(回/h)		・住宅等の居室 ・住宅等の居室以外の居室	
室 名	床面積 (㎡)	仕上げ の部分	種 別	使用した材料	係数N	使用面積S (㎡)	使用面積合計 N×S(㎡)
合 計							
						判 定	

(注1) 当該面は区画毎に作成すること。

(注2) 住宅等の居室，住宅等の居室以外の居室の別に○印を記入すること。

(注3) 種別の欄には平成15年国土交通省告示第1113号に規定するF☆☆，第1114号に規定するF☆☆☆，第1115号に規定するF☆☆☆☆，大臣認定，又は規制対象外の別を記入すること。

(注4) 換気回数の欄には当該区画に設置する機械換気設備の換気回数を記入すること。

(注5) 係数の欄には令第20条の5第1項第3号の表(1)，(2)の数値を記入すること。

(第14面)

(2) 換気設備の設置

項 目	確 認 事 項	適否
換気設備機器	・ 形状・寸法・規格・性能・数量が確認図書と同一であることの確認	
換気経路	・ 換気経路が確認図書と同一であることの確認(換気ガラリ, アンダーカット等)	
	・ ダクトの配置が設計図書と同一であることの確認	
その他		

(3) 天井裏等の措置

措置の種別	確 認 事 項	適否
建築材料による措置	・ 仕上り材料の種類が確認図書と同一であることの確認 (F☆☆☆☆以上)	
換気設備による措置	・ 形状・寸法・規格・性能・数量が確認図書と同一であることの確認	
	・ ダクトの配置が設計図書と同一であることの確認	
区画による措置	・ 気密層又は通気止めが設計図書と同一であることの確認	
その他		